



糸魚川市立糸魚川小学校

学校だより 第3号

令和6年6月24日

TEL:025-552-0042 FAX:025-552-1304 E-mail:itosyo@itoigawa.ed.jp

(HP)<https://www.itoigawa.ed.jp/itosyo/>(携帯)<http://itoigawa.ed.jp/itosyo/otayori/i/>

心の感度 わかば遠足での子どもたちの姿から

校長 富永 浩文

爽やかな天候のもとでの運動会は大成功でした。特に今年は、準備や練習から、子どもたちの主体性、協調性が感じられ、和やか、伸びやかな運動会でした。そして、子どもたちの成長を、随所で感じることができました。保護者の皆様、地域の皆様にはご声援大変ありがとうございました。

さて、運動会も終わり、早6月後半です。子どもたちは切り替えもよく、新しい目標に向かって取り組んでいます。13日にはわかば遠足を実施しました。

この日も、運動会同様、清々しい晴天のもとで実施することができました。自然豊かな美山公園では、鳥のさえずり、新緑の輝きなど、普段あまり気に留めることのなかった自然の美しさを改めて実感しました。また、子どもたちのひた向きの表情、無邪気な笑顔に愛くるしさを感じました。運動会も成長の機会でしたが、このわかば遠足も、子どもたちにとっては大切な成長の場です。今年も子どもたちのたくさんの素敵な姿に出会うことができました。

たくさんの荷物の入ったリュックを背負って歩くのは、1年生にとっては大変です。見かねた6年生、しんどそうな1年生のリュックを預かり、胸から下げて歩いていました。「ありがとう」の言葉に、照れ笑いで答える表情が輝いていました。また、遅れがちな1年生に、そっと手を差し出し、つないで並んで歩く姿も、とてもほのぼのとしていて爽やかでした。

お昼の時間になりました。食べる場所を指示するのは2年生。たどたどしく、でも一生懸命に説明する2年生を、おながが空いているはずなのに、ほかの子どもたちは辛抱強く聞いていました。また、「いただきます」の言葉は、1年生の担当。恥ずかしそうな、でもしっかりした言葉で合図するのを、皆優しく見守っていました。和気あいあいとした寛容な雰囲気を感じました。

どれも、子どもたちが心の感度を高め、気づき、考え、行動している姿でした。

普段何気なく過ごしていると、気付かないことがよくあります。耳に入っているけど聞こえていない。目に映っても見えていない。時に、自分本位で考え、行動してしまうのです。でも、心の感度が鋭敏な子（つまり感受性が豊かな子）は、日常の生活の中で、平常と異なる状況に遭遇した時、心の感度が高まり、心のフィルターで逃さず捕らえるのです。そして、とるべき望ましい行動を自分で考え、実践できるのです。場合によっては無意識のうちに実践できることすらあるのです。

きっと、心の感度が鋭敏な子は、それが働く経験を普段から積んでいるからではないかと思えます。私は、多くの場合、家族や友達との温かなかわりやの中で蓄えられるのではないかと思えます。心動かされる経験、それに基づく知識が体に潜んでいて、何かの拍子に心の感度が高まるのです。今回のわかば遠足での色々な経験も、子どもたちの心の感度を鍛えることにつながるはずです。私たちがそうした言動に気づき、認め、肯定してやることで、子どもたちの心の感度はさらに育つのではないかと思います。私たち大人も心の感度を鍛えていきたいものです。



つないだ手のぬくもりは次につながる